

# 西条市におけるタウンウォッチングを通じた効果的かつ持続可能な地域防災教育に関する研究

吉田 有希

キーワード： 防災教育、タウンウォッチング、小学校、中学校  
地域防災、西条市

## 1. 背景と目的

近年自然災害が増加しており、ますます防災教育の重要性が認識されるようになってきた。学校においても総合的な学習の時間などの授業で取り入れられる機会が増えている。しかし防災教育を推進するにあたっていくつか問題点があり、地域や学校によって取り組む度合いの差は大きい。それらを考慮した上で、効果的かつ持続可能な防災教育を体系化する必要がある。

本研究では防災教育のツールとしてのタウンウォッチングに着目し、その特徴と効果を分析し、西条市での実践を通して持続可能な地域防災教育の枠組みを提案する。

## 2. 研究手法

2004年の台風災害で愛媛県西条市は多大な被害を受けた。山間部に高齢者が多く、若者が少ないこと、また防災意識が低いことなどが問題点として浮上した。災害に強い市を作っていくためには、山間部と平野部の間に「防災ネットワーク」(図1)を作り、災害時に平野部の若者が山間部の高齢者を助けるだけでなく、普段からお互いの生活や住んでいる環境などに関心を持つことが必要であると考えられる。これらを背景に、タウンウォッチング・山ウォッチングが実施された。西条市内の小学校5校と中学校3校でそれぞれ実施し、教師、保護者、自治会、山間部住民、森林関係者、市役所の市民安全部、教育委員会も参加し、地域一体で取り組んだ。また、タウン・山ウォッチングの効果を測定するためにすべての参加者を対象にアンケート調査を実施した。

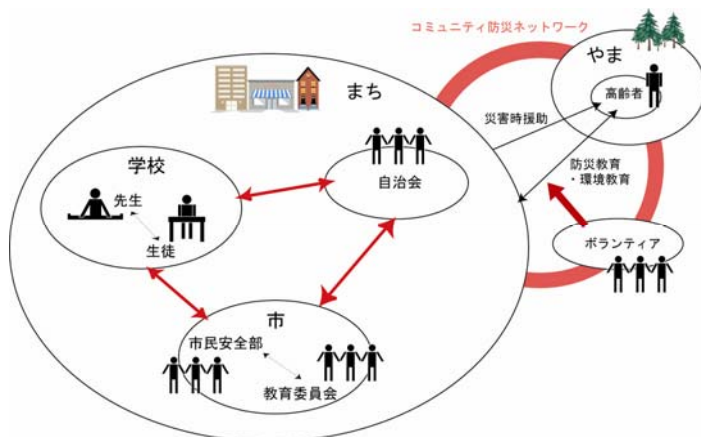


図-1 防災ネットワーク



図-2 タウンウォッチング

## 3. 結論

タウン・山ウォッチングは防災教育として効果がある手法である。しかし、一度きりのイベントで終わってしまっては意味がない。継続的に行っていくためには明確な実施主体とガイドラインが必要である。今後、「キッズ防災クラブ」や「教師研修会」がタウン・山ウォッチングを定期的実施し、ガイドラインを加筆・修正しながら完成させていくことが期待される。